

# 御池岳(鈴鹿山脈)

リングワンダリングしてしまいました。

山行日：平成31年2月2日(土)

メンバー：L 石津、やまたくお、鈴木K

2月2日(土) 晴れ時々曇り

藤原簡易パーキング(6:30)ー配水機場ー白瀬峠(9:40)ー真ノ谷(10:27)ーテーブルランド(11:30)ー御池岳(13:00)ー道迷い(御池岳～鈴北岳～御池岳～奥ノ平～コグルミ谷下山口(16:30))ー六合目ーコグルミ谷出合(18:00)ー国道306号ー藤原簡易パーキング(19:30)

登山口の配水機場周辺には雪は全くない。二日前の浜松での雨は雪ではなかったのか。木和田尾の一つ目の送電線鉄塔にも雪はほとんどなく、前回1/4の山行から降っていないようだ。頭陀ヶ平の分岐まで来て積雪量が増し、白瀬峠手前のトラバースはつぼ足で慎重に通過した。白瀬峠から真ノ谷への下降はかつてないほどの積雪量で、踏み跡はなくフカフカの雪の中にそのまま踏み込んだ。つぼ足でもがきながらしばらく下るが、スノーシューで降りてきた快適そうな歩みを見て我々もスノーシューを履く。スノーシューの浮力は絶大で全く潜らず難なく下ってしまった。

真ノ谷で一本取り、テーブルランドへの登りに取り付く。標高差300m、1時間の格闘の末登り切った。テーブルランドはガスの中、そのうち晴れることを期待して御池岳を目指した。



白瀬峠からの下降



テーブルランドの樹氷

幻想的な樹氷の中を御池岳のピークを目指して進むが真っ白でピークがわからない。左前方にボタンブチと思われる岩峰が見え、進路を北に取って山頂を目指す。左右に同じくらいの高さのピークが見え、前方は谷になっている分岐にでた。ボタンブチから来て右に奥の平、左に丸山とあるが、御池岳とは明記されていない。地図にも丸山はない。確かに左に丸い丘が見える。近くに居た男性からピークがわからないと尋ねられた。彼は奥の平がピークと思い探していたようだ。我々は丸山方向に進み、樹林が途切れたピーク付近に御池岳の標識を見つけた。(後でわかったが「丸山」＝「御池岳」とのこと)



御池岳のピークはどこ



丸山(御池岳)



御池岳山頂 1247m

下山は山頂から左方向になだらかな尾根を下り広い雪原にでた。右に行くと真ノ谷、左はコグルミ谷であろうと左に進むと、前方に横に広いピークが見える。これはおかしい下山道ではないと思いピークまで行くと「鈴北岳」の山頂標識がある。御池岳から西北西方向に来てしまったようだ。完全に間違いだ。山頂標識にコグルミ谷方向の矢印があり、地形図を見て広い尾根を矢印方向に向かう。しばらく行くと樹林帯に入り、踏み跡の多い右寄りに下っていくとなんとなく見たような景色に出くわした。たぶん先ほど

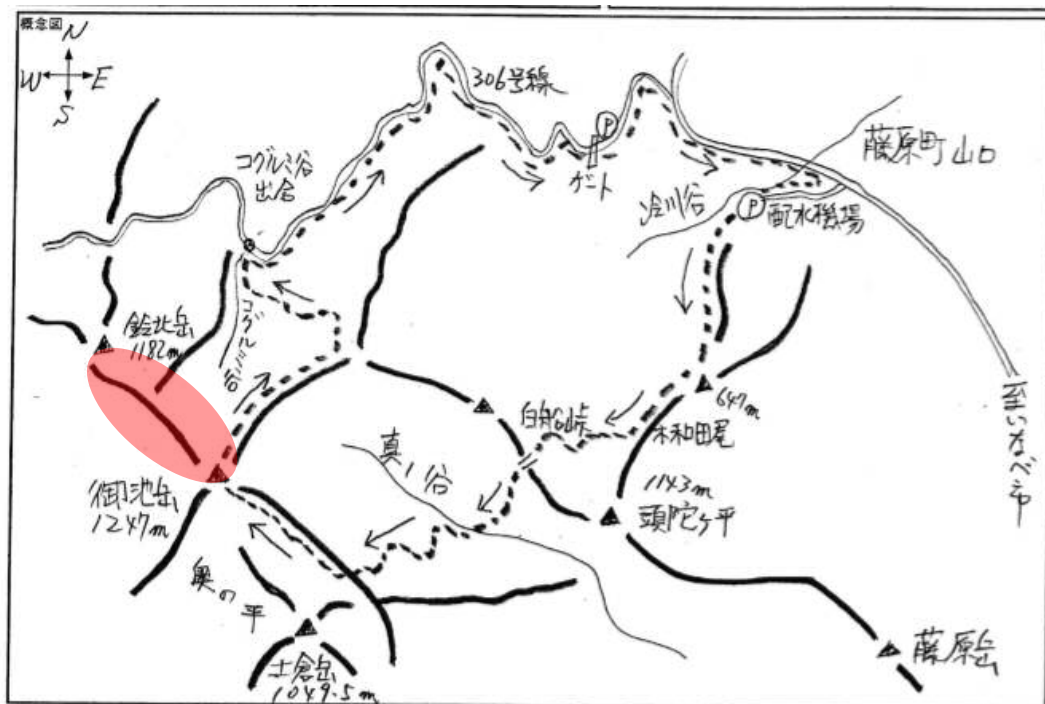
通過した場所と思われ、そのまま進むと前方に横に広いピークが見えた。完全に回っている。まさしくリングワンダリング、何で同じ場所に出たのか理解できず狐につままれたような感覚である。立ち止まって地形図を眺め、現在地を確認して行くべき方向を定め、まずは御池岳の山頂へ戻った。山と高原地図には山頂付近から北東方向にコグルミ谷へ続く下山道が描かれている。しかし踏み跡がなく下山口がわからない。過去に一度下山しているが記憶はあいまいでよくわからない。また、やまたくおさんも広い雪原から北方向に降りたと思うと話していた。

試しに山頂手前から右へ少し下ってみた。林の中に踏み跡を見つけた。迷うこと3時間あまり、早く降りないと暗くなる。コグルミ谷への急斜面を一気に下る。スノーシューでは滑って降りられず途中で外してつぼ足で進む。こんな時はワカンの方が都合がよい。鈴北岳と真ノ谷、コグルミ谷の分岐にぶつかり、少し登って急斜面を更に下り見覚えのある六合目に出た。ここから右へ行くと白瀬峠、左に下るとコグルミ谷のルートとなる。この時期は雪が深くコグルミ谷は下降できないため、いったん右に登ってコグルミ谷の東側の尾根を下る。この下りも急斜面で尾根が細く気が抜けない。尾根上のシクナゲが行く手を阻む。花の時期は良いだろうなと考えつつ急ぐ。17時半をまわりヘッドランプを付けた。久しぶりの残業になってしまった。尾根の末端まで来て、壁のような斜面を国道306号線に降りた。18時、生還した・・・・・・・・。

残留の井藤さんへ連絡を入れ、凍った国道を駐車場に戻った。19時半、自販機のコーヒーが旨かった。

結果的に下山できたが、リーダーとして情けない道間違いをしてしまった。同行の二人に大変申し訳なく、一つ間違えば命に関わる状況にあったことを思い状況要因を考えてみた。

1. 御池岳の山頂から下る時点で下山方向を地図で確認していない。
2. コグルミ谷から見て山頂の位置を左側と思い込んでいた。
3. 踏み跡の多い方へ思い込みで進んでしまった。
4. 場所によっては踏み跡が縦横無尽にありトレースが定まらない。
5. 要所で方位を確認していない。
6. 積雪が多く白一色で目印がない。
7. 御池岳の北西側は日本庭園と呼ばれていて、鈴北岳との間がすり鉢状の広大な窪地になっている。鈴北岳から右側(東)に進むと、地形から自然に足が右方向に下ってしまう。鈴北岳の時点で東に行かねばとわかっていた。
8. 地形図の高低差を読んでいない。
9. 登山地図さえまともに見ていない。
10. ガスっていたが途中から晴れて視界が開けた。
11. 気温が高く、風もなくて寒さを感じなかった。
12. 携帯のGPSは電波がないと使えない。



ルート概念図(網掛け部分で迷った)

雪山でのルートファインディングの難しさを改めて感じた山行であったが、気象条件が見方をしてくれて下山することができた。今後も気を抜くことなく精進して山に向かっていきたい。(石津 記)



樹氷がきれいでした